

## 教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒  
明るく思いやりのある生徒  
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第10号

平成29年 7月 7日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

## 保護者の皆様と「いじめ」を考える

### 偶発的ないじめ・一過性のいじめにしっかり対応する(前編)

平成25年6月に成立した「いじめ防止対策推進法」では、「いじめ」をこう定義しています。

この法律において「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（第2条）

それぞれの学校では、未然防止・早期発見・早期対応の3つをポイントに、高い意識で指導を行っています。本校においては、「根深くいじめ」だけでなく、いじめるつもりはなく、たまたま相手に苦痛を与えてしまった「偶発的ないじめ」や、突発的な感情の衝突から起こる「一過性のいじめ」についても、迅速かつ適切に対応してまいりたいと考えています。その場合、結果としていじめる側になった生徒、いじめられる側になった生徒、さらには見てみないふりをしていた生徒についても、保護者の皆様のご理解とご協力をいただいでしっかりと対応してこそ、子どもたちの成長につながると考えております。



さて、そこで私の20歳代（昭和50年代）の経験を紹介します。

1年生のトモちゃんは、おとなしく口数は少ないけれども、とても走るのが速く、陸上部に所属していました。1学期のある日、基礎トレーニングとしてグラウンドの端に半分埋められているタイヤを跳び越す練習をしていて、転んで両方の手首を捻挫してしまいました。

翌朝トモちゃんと顔を合わせると、両方の手首から先が包帯でグルグル巻きになっていました。暗く沈んだトモちゃんの表情を見て、私は、声をかけました。

「あらトモちゃん、バルタン星人みたいになっちゃったね。大丈夫？ 痛くない。」

「・・・大丈夫。」

トモちゃんは、いつもの表情に戻って、両手を肘のところで曲げ、顔の高さまで手を掲げ、上下に揺らせて見せました。（「フォ、フォ、フォ」と言ったかどうか、今となっては記憶にありません。）

給食の前、保健体育担当の山本先生が教室にやってきて私にこう言いました。

「高崎先生、トモちゃんに『バルタン星人』って言いましたよね。まずいですよ。体育の時間に、男子がトモちゃんに何度も『バルタン星人』って言って、泣かしちゃいましたよ。」



ここで、皆さんにもお子さんと一緒に考えてほしいと思います。私（高崎）の行為をどう思いますか？ また、クラスの男子生徒の言動はどうでしょうか？

この後、私がどのように子どもたちに対応したのかは、次号（第11号）で述べたいと思います。

## 言葉の力 (番外編)

千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす

本紙第8号を発行して数日後、夢に市川海老蔵があらわれました。涙に暮れた記者会見のシーンの後、大河ドラマの武蔵に姿を変えて「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を錬とす」と静かに言ったのです。はっとして飛び起きました。第8号に引用した言葉は、数字が一桁違っていました。剣豪の修行に対する姿勢は、まさしくケタ違いに厳しいのです。

うる覚えではなかったはずですが、一定期間に100冊の本を読むと認識や内面が変わる、一つの練習を100日続けると必ず能力に変化が起きるといふ考え方に触れて、記憶のすり替えが起こったものと思われます。

第8号をお読みになった方が、間違っただま記憶してしまわないよう切に願っています。

## 第85回よい歯の表彰式

よい歯の表彰

並木 卓士 吉田 充希 五十嵐 善  
菊地 麻耶 新田 奈々 野崎 聖奈  
齋藤絵梨香 (いずれも3年生)

書 写

特選 大山奈々花②  
入選 中瀧明真音① 荒井 七泉②  
星 智徳③ 佐藤 佳奈③  
鈴木蓮太郎③

作 文

特選 須田日菜子②  
入選 鴻野 歩② 大山奈々花②  
箭内 千歳② (○に数字は学年)

## サッカーゴール大小4基 伊藤さんにお世話になりました

今年も、弘法坦の伊藤克一さんに塗装の塗り直しでお世話になりましたので、ご紹介します。

今回は、6月24日(土)を初回に、計6日間の作業で、サッカーゴール大小4基をリニューアルしていただきました。(小2基は、実はハンドボールのゴールだと思われます。)



## 読んでいただいて感謝です!!

お会いするたびに、学校だよりの評価を聞かせてくれる方がいらっしゃいます。また、ある時、卓球部男子に聞いたら、半数以上の生徒が読んでくれていました。読んですぐに言葉をかけてくれた女子生徒もいました。励みになります。

学校だよりが、一方通行ではなく、双方のやりとりに役立てば幸いです。

## ひと味違うぞ! 二中学生

6月27日(火)も、伊藤さんは朝からサッカーゴールの塗装作業を続けていらっしゃいました。2年生男子の体育の授業の終末に少し時間をもらって、私から生徒にこう話をしました。

伊藤さんは、学校で頼んだ業者さんではありません。皆さんのためにボランティアで来て、こうしてサッカーゴールを塗り直して下さっているのです。校長先生の知る限り20年以上も前から二中学生のために、学校のあちらこちらをきれいに塗装し直してくれています。東日本大震災後は、校舎内の壁の痛々しいヒビ割れを直してくれました。5年間かかったそうです。学校であれ、地域であれ、お会いしたときには進んで感謝の気持ちを伝えましょう。

授業終了のあいさつが終わると、すぐさま半数近くの生徒が伊藤さんの後を追うようにして走って行きました。「伊藤さん」と何度も呼びかける声が出て、そして、「ありがとうございます」という声も聞こえてきました。

6月29日(木)には、地域に住む女性の方からお電話を頂戴しました。「毎夕、散歩をしている途中で、元気にあいさつをしてくれる生徒さんたちの声は何よりありがたいです。」という内容でした。



この学校だよりは、本校HPからもご覧いただけます。